

令和3年度第4回 第三吾孺小学校 校長「語らいサロン」
テーマ『卒業まであと〇日！』小学校時代の総まとめ
令和4年1月15日(土) 9:00-10:05 集会室にて
参加者 保護者7名



川中子 それでは、お集まりいただきありがとうございます。感謝しております。第4回のサロンということで、テーマを毎回何にしようかなと悩んでいるところですが、前回、学習室「みどり」についてお話しさせてもらって、とてもいい時間が持てたなあと。今日は、会の趣旨からして、ズームでの参加は難しいかなということで、対面での開催としました。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、今日は、主に6年生の話題ということで、6年生の保護者じゃない方もいらっしゃるんですが、小学校の最後をどういう風に迎えるかということについてお話しできたらなあと。思っています。「卒業まであと〇日！」ということで、本当に学校に来る日はあと何十日しかありません。子どもたちにとって、1日1日が貴重な時となってきています。その小学校時代の総まとめをどのようにできるかということも昨年末くらいから強く考えているところです。

それでは、今日、お集まりいただいた皆様は、よく来ていただいている方ばかりですが、今日は最初に小学校時代の記憶、特に6年生のころの記憶がありましたらお話しいただければと思います。小学校時代の記憶、楽しかったこと・いやだったこと。自己紹介を兼ねてお話しただけならと思います。それでは、手山先生、いかがですか？

副校長 みなさん、こんにちは。私は、小学生の頃は、はっきり言いまして、すごく先生によく思われたい、親によく思われたいという子どもだったんです。ですから、必ず学級委員長には即座に手を挙げました。気付いたら、学級委員ってというのがいつの間にかやらなくなってしまっているんですよ。私も教員になったときには学級委員ってのはなかったんで、最近はそのようなのかなと思ってました。私が子どもの頃は学級委員という制度があって、なんでもかんでも学級委員のせいにして、逆に担任の先生からは、ひいきじゃないですけど、「手山のおかげでいつも学級がしっかりできるよ」「ありがとうございます！」って感じで。話聞くとときなんか、まあ相当おかしかったですね。体育座りじゃなくて、正座で聞いていたというか。とにかく、周りの大人にいいところを見せたいという子どもでした。ただ、それがそこがメインだった、周りの大人によく思われたいって言う。だから、内発的じゃなかったんですよ。だから、未だに覚えているのは、先生たちや大人の前では、絶対にボロはださないという信念でやっていたんですが、掃除時間に、校舎の外の岸壁で落ち葉を集めていたんです。その時に、気が緩んでいたんでしょうね。友達とチャンバラごっこみたいなことをしていたんです。そうしたら、はるか向こうの窓から、担任の先生が大きい声でこう言うんですよ。「手山！一回失った信用はでかいぞ！」(笑い) いや、本当ですよ！私は未だにその時のことが走馬燈のように出てきて、いままで小学校時代築き上げてきた、はりぼての信頼が、一気に崩れ去ったなって言うのを未だに覚えていますね。だから、担任の先生の言葉って偉大だ。これはぜったいボロはだせない、って思ったし、一回人を裏切ってしまったら、その人の気持ちって言うのをまた修復するのって、すごい時間がかかるんだろうなっていうこと。そういう場面に出くわした。それが私の小学校時代の思い出になります。(後略)

川中子 ありがとうございます。それでは、Aさんからよろしいですか。

Aさん はい。私は父親が転勤族で、小学校入学したのも、幼稚園行っていたところから引っ越した先で入学して、いきなり最初が知らない人でスタートでした。小学校も二つ行って、その後中学校も3年間で三つ行ってらっしゃるんですね。幼いときに転校するのはすごくいやで、行った先でまた新しい子と出会わな

ければいけないということから、だんだん八方美人みたいな感じに育っていったのかな。だから、ずっと同じ小学校でいったわけじゃないので、中学校もそうだし、一個のところにも長くいなかったんで、正直、学校時代の記憶が薄いんです。なので、校歌。小学校の校歌覚えているなんてというのは、感覚的に、いろんな校歌を聞いていたから。すごい、思い出があまり記憶にないというのが正直なところですよ。

Bさん 私も、ちょっといいですか？

川中子 はい、どうぞ。

Bさん 私も、小学校時代記憶ないです。私も2回転校して、思い出とか、校歌とかの思い出も薄くて。たぶん息子・娘を見ていると、私の時代とは違う、私が過ごしていたのとは違うなって。(Aさんと) 同じです。いやなこともあったのかも知れないけれど、忘れてしまっている？転校はすごくいやだったので。それなりに楽しめたんですけど。それでやっぱり八方美人って。中学の時に友達から、「八方美人だね」って言われたことがあって、すごく傷ついた事がありました。以上です。

川中子 ありがとうございます。では、次はCさん。

Cさん 私は、自慢できることは給食を食べるのが一番速かったこと。後は、いたずらっ子で、先生が授業に入るときに黒板消しをチョークの粉一杯にして、教室の扉のところに挟んだり。そういう子どもでした。6年の頃の記憶は、中学に行くのいやだな、って。二つ上の姉が言ったんですけど、部活動では、上下関係がきびしく、先輩が怖い。不良もいるという。中学校には行きたくないなって思っていました。以上です。

川中子 では、Dさん。

Dさん はい。私も転校、一回してまして。1年生から4年まではアメリカにいました。5年生からは日本の小学校で、5年生の時はほとんど日本語しゃべれず。たぶん、八方美人って言われても分からなかったかな。先生とは距離をおいて、先生と話した記憶があまりない。逆に、子どもたちとは、ちっちゃいのから同じくらいまで束ねて、遊んで、帰りに全員の家に行って。子どもたちとは結構遊んでいました。教師とはいっさい。静かにしていました。手山先生とは違って、認めてほしいとかそういうことはなく。そういう姿勢でいました。

川中子 Eさん、どうですか。

Eさん 私は6年間、この校庭で遊びまして。すごく楽しい6年間でした。昔は、校庭開放で、校庭でローラーブレードとかできたので、毎週日曜に校庭に来て遊んだり、今は親になって、みんなこの辺に住んでいて、運動会とかであうとプチ同窓会みたいになって。すごく楽しいです。

川中子 Fさん、お願いします。

Fさん はい。私は小学校…。転校はなかったんですが、5年生くらいまですごく体が病弱で。平熱が36.8分くらいなのに、37度あるとご飯も食べられなくなるような。本当に運動はできないし、走るのも後ろから3番目くらいでした。5年生になった時に、友達に誘われて陸上クラブに入って、週2、3回くらい走っていたら、足が速くなる、体は強くなるし。そこから風邪も引かなくなりまして。それから馬鹿になってきたのかな？手山先生と同じように、学級委員長になっていて。自分で手を挙げたわけじゃないんですけど、なんか「面倒くさいからお前やってよ」「ああ、いいよ」みたいな感じで受けていたので。それから、学年委員長というのも毎年やっていて。生徒会はやらなかったんですけど。6年生の時の記憶って、あまりないんですけど。足が速くなったおかげで、けつから3番目、4番目だった足が、学年でトップ5に入るくらいになって。6年生の時は、連合陸上大会に出て走った記憶しかない。あとはちゃらんぼらんに。そんな6年生だったなあ。

川中子 ありがとうございます。私も小学生の時は…。遊ぶことしか考えてなかった。勉強なんて何も考えてなかったなあ。ど根性ガエルってご存じですか？あれが大好きで、4年生くらいから、ひろしまたいになりたいて思っていました。ああいう、気楽な生き方をしたい。6年生の時はマンガが好きで、マンガをかいたり。漫画家になりたいなんて思っていたこともあって、石森章太郎さんのうちまで自転車で見に行ったりしたこともありまして。その後、中学生になったらマンガはころっと忘れて、音楽一本になっちゃったんですけど。まあ、あんまり記憶がないですね。6年生の時の担任の先生は年配のベテランの先生で。5年の時の担任がものすごい体罰教師で、それでたぶん、今にして思えば飛ばされちゃったんですかね。あのころは5、6年はクラス替えなしだったけど、担任が替わりまして。それで、卒業間際に、何かアルバムの原稿でしょうかね、「中学に行ったら頑張ります」って書いたことについて、その担任がすごく怒って「中学に行ったら頑張るなんて書いたやつがいる！」って。まあ、今ならその先生が言いたいことは分かりますが、その時はすごくカチンと来て。今でも記憶に残っています。だから、先生の言うことって、気をつけないといけない！

では、ありがとうございます。では、今日のお話に入っていきたいと思えます。まず、最初に、12月11日に6年1組の臨時保護者会を行った経緯について、簡単にお話させていただきます。

この6年生は、4年生の最後からコロナ禍になりまして、それから5、6

と、普通の高学年が経験することを経験せずに6年生になっています。そういう、かわいそうな年のお子さんたちなんです。そういう中で、子どもたちはいろんな体験も不足していて、高学年ならではの成長が欠けている、まあちょっと、幼いなという感じでした。それで、秋口からちょっと、特に1組が、私語が多くなったり、教室の中が殺伐とした雰囲気になって、言葉遣いが荒れていたり。そんな中で、例えば、男の子たちがじゃれ合っている間に、本気でけんかになったりしやすくなったり。それから、ある子に悪いことを言ったり、それにみんながワーツと加勢したりして。いじめですね。そのうち、先生が授業中注意しても聞かなくなって。これは、危ないと警戒していたのですが、11月入ったくらいからかな。かなりひどい状況で。ただ、担任もすごく頑張っていたのですが、段々ギブアップ状態になってきて。ある日、担任が具合悪くなって早退したことがあって、その時副校長先生が教室に行ってみたら、想像していた以上に荒れた状態である。学級が崩壊していくっていうのは、我々は長年の経験の中で何度も見ていて、手山先生なんかは、そういう崩壊したクラスの立て直し担当みたいな感じだったわけ。子どもたちも、暴走し始めると、自分たちでブレーキがかけられなくなるので、おそらく12月の頭あたりはそんな感じだったかな、と思います。学習発表会の取組なんかはきちんとできていたんですが、教室での様子が悪くて、大変心配しました。で、手山先生と、これは危ないところだ。だいたいこのくらいまで来ると、今までの経験からは、もう下一方で、担任が休みに入って、担任交代、という最悪のシナリオになりがちだ、と。でなければ、治まった経験がない。という状況でした。まあ、こうやってお話ししているのを聞いていても想像がつかないだろうと思うんですね。子どもって、たかが10歳、12歳ってところなんです。集団になってこれが始まると、結構やっかいなんです。我々はもう何十年も生きてきて、いろんな経験があるんですが。子どもたちは暴走するとなかなかコントロールがきかなくなって。そして、子どもたちって言うのは、結構残酷なんです。なんて言うか、止められないんだと。悪いこと言ったり、やったりするのを。だから、子どもは、先生や大人に「止めてよ！」って思っているんですね。だから、きびしい先生を望むんですよ、子どもって。しっかり注意してくれる先生を好きって言う子はいっぱいいるんですね。優しい先生が好きって子もいるんですが、ああいう状況になってくると、きびしく注意してくれる先生の方がいいって。止めてほしい。まあ、それで、これはちょっと我々(教員)だけの力ではどうにもならなくなりそうなので、このまま、二人で「どうしようか、どうしようか？」っていつている間に、手が付けられなくなってしまふのは目に見えていたので、まあ、6年生の保護者の皆さんは我々の味方だから。正直にこういう状況だと話して、親御さんにも協力してもらおうよ、と。それで、PTA会長さんにも相談させてもらったんですけど、やりましょう、って言うてくださったので。じゃあ、明日！まあ明日ってわけにはいかないんで、ちょうど学習発表会でみなさん集まるので、その後にお話しさせてもらうことにしました。

で、そこで話をさせてもらった内容は、とにかく、子どもたちも自分たちでも嫌なんだと思っている。これはよくない状況だと分かっている。だけど止められないし、何もできないという、あきらめてしまっている状況である、と。だから、保護者の皆さんへのお願いは、子どもが今の状況をどう思っているのか、話を聞いてもらいたいってこと。これから残り、たった3ヶ月半で卒業になっちゃう。こんなまま卒業しちゃっていいの？と問いかけてほしい。と、こんなことを12月1日に話しました。そこに子どもたちにも参加してもらって、「今お父さんお母さんにこういうお話ししてるよ。君たちは、今のクラスの状況について、本当はどう思ってる？居心地のいいクラスだと思ってる？」と聞いたんです。まあ、そのような話を12月1日にやり、保護者の方に協力をお願いしました。

その後、12月13日。月曜日の朝、6年生全員を集めて、ここで学年集会をやって、担任からこれから卒業までの過ごし方について、真剣に話をしました。それぞれの担任が、心から話を。6年の担任は、若い二人で学年主任を頼りにしていたんですが、そういう状況になってちょっとふらふらしたんですが、ここで気持ちを切り替えて頑張ろうということにしました。

その後の子供たちは、保護者の皆さんの協力のおかげで、一応「意識して」生活できるようになりました。ただ、子供って、注意されて「ハイ！いい子になります！」というふうにはならないんですよ。まわりの目がありますから。それでも、「意識して」いるのは確かです。特に特別お話しした子供たちはかなり意識して、改善されています。授業中にも「静かに！」などと声をかけるようになっていきました。それまで、逆だった子が。

その間に副校長が毎日教室の様子を見に行き、保護者の方に写真付きのメールでお伝えしたり、スクールカウンセラーに特別授業をやってもらったり、1組の児童は全員面接も実施しました。カウンセラーが、面接後、「今のところ、大丈夫そうです。」と言ってくれました。あと、支援員さんがずっと付いてくれて、子供たちに注意したり、諭したりしてくれました。本校の支援員さんは大変優秀な皆さんで、支援記録をこんな(2cmくらい)ファイルに残してくれて、情報共有を図ってくれています。



で、冬休みが終わって、どうなるかな？と思っていたのですが、今、すごく落ち着いている感じです。以前は、入った瞬間に、空気がとげとげしいというか、殺伐とした感じがあったんですが、それが今、なくなって、穏やかな感じ。もちろん、おしゃべりしたりする子はいるんですが、それがいやな雰囲気ではなくなっています。これは、本当に、あのとき保護者会をやって良かったなあ感謝しています。あれがなかったら、担任も厳しかった。担任も、「ずいぶん変わりました！」と言って、何とかがんばっています。本当に、これから卒業まで、もっともっと良くなっていくといいなと思うんですけど。

それで、私は、先日の朝礼で「ハチドリの一としづく」というお話をしたんですけど、皆さんに今日プリントもお配りしました。ちょっと朝礼の様子をご覧ください。

(朝礼の動画を視聴)

で、その後、6年生にはロイロノートでアンケートを配って、答えてもらいました。質問は、「ハチドリはやったことは無駄だったのでしょうか？」というもので、「無駄なことだった」というのが7人。「無駄なことではない」が46人。で、「どちらとも言えない」が23人でした。この結果は、6年生の結果として、非常に「普通な」結果だと思っています。

この結果はどういう意味があるかという、まず「無駄なことだった」というのは、ちょっとさみしいなあ、という感じで。「無駄なことではない」というのは、まあ「いい子」の答えで。「どちらとも言えない」というのは、たぶん、深く考えた子の答えじゃないかな。ハチドリはやったこと自体は、無駄なことなんです。その行為が後に何をもちたかということ、またまったく違った意味が出てくるわけです。そこまで深く考えると、「どちらとも言えない」という答えになるかなと。それで、その「理由」を書いてください、という質問もしたのですが、今日、お配りしたやつなんです。例えば、「無駄なことだった」と答えた中にはですね、4人目のお子さんなんかは「哲学の世界では意味のあることかもしれないけれど、世の中そう甘くない。そんな一滴の水で火事なんて消せない。世の中、そうやってできている。一つの意見が大勢の意見に流されるのといっしょ！」こう書いているんです！この子は、私はどの子か分かるのですが、この子はクラスの中でとってもがんばっている子なんです。悪いムードの中でも、一人、一生懸命に発言して、いい雰囲気にしようとがんばっている子なんです。その子がこう書いているので、深いですね。他にもふざけて回答している子もいます。

で、私がちょっと、ショックというか。びっくりしたのは、「無駄なことではない」という答えの子たちの理由です。ちょっと太字にしておいたので分かるかと思うんですが、「ちりも積もれば山となる」と書いている子が予想外に多かったんです。私は、6年生の発達段階ってどんなものなんだろうって。私は元中学校の教員ですから、実際に肌で感じるものがなかったので。6年生というのは、小学校の中では大変大人で、完成されています。だから、もうちょっと分かるかなと思ったんですが、多くの子が「ちりも積もれば」と書いているんです。これは、ハチドリは一滴落としても火事は絶対に消えないので、ちりが積もっても山にはならないという事実が、子供たちには分からないのかな、と。びっくりしました。で、赤い字で書いてある意見が、こちらとしてはそのように捕らえてほしいという模範的な意見なんですけどまあ、これが正解とか正解じゃないということではないので。子供たちは、以外と私たちが「これくらいは分かるよなあ」というのが、以外と分かっている発達段階なのだとということがよく分かったアンケートでした。だから、今のクラスの状況が悪いから、なんとかしなくちゃいけない、ということが、分からないんだなあ…。だから、やっぱり、教えてあげないといけないんだなあと思いました。

で、これ（配付資料）の裏側になりますけど、「どちらとも言えない」という子の意見ですが、先程申し上げましたとおり、深く考えているというのが出てくる子もいます。下からいくつめかの子は「もしも火が強くなったら死んでしまうから」と書いているんです。

それで、私は、はじめの質問をやって、まだ、理解が不十分だなと感じたので、改めて二つ目のアンケートも作って実施してみました。二つ目は「もし、クリキンディの『私は私にできることをしているだけ』という言葉聞いた後、他の動物たちはどう思ったでしょう？ 自分が動物の一人だとして、と考えてみてください。」と聞いてみました。それがこの右側に、同じ子供のも意見として載せてあります。さっきの「哲学」の子は「焼け石に水のように、山火事が起きているのに一滴ずつどうこうしても意味がない」と書いてます。この子の心が、少しでも解きほぐされていくといいなと思います。希望を持てるようにさせてあげたいな。「どちらとも言えない」と答えたお子さんの中に、「手伝った方がいいけれど、自分にはできないかもしれない」と答えているお子さんもいました。さっき、「死んでしまうかもしれない」と書いた子は、「動物の方も死んでしまうかもしれない」と書いていて、「死んでしまう」という恐怖感、や不安があるのかなと思います。

というわけで、子供たちが、大人が期待しているようなことが、本当は分からないのかなというのが分かったんですが、でもその子供たちが勇気を持って、正しい行動ができるようにさせてあげたいなという、私には強い希望があるんですね。まあ、こんな感じに今子供たちはいるというのをしょうかいできたらな、と思って、用意してみました。

ずっと、私の方からお話ししましたが、ちょっと席を丸くしていただいて…。ご家庭での子供たちの様子はいかがかな、と。まず、6の1の保護者の皆さんから。いかがですか。



Cさん そうですね。特に…。よく勉強してますね。だいたい、一人の時間を過ごして、たまに一人でカフェに行って、家帰ったら、歌を歌いながら…。穏やかに過ごしています。

川中子 12月の時にお子さんとお話したときはどんな感じでしたか？

Cさん そうですね。クラスがうるさいという話はしていました。授業中うるさくって勉強にならないという話でした。それ以降は良くなっているかな。

Eさん クラスはうるさいと言ってるんですが、うちの子も騒がしいタイプなので。学校で、クラスでいろんな事があっても、放課後に違うクラスの子にこういうことがあってという話を聞いてもらって、聞いてもらうだけで気持ちがちょっと違うみたいなことを言っていて。後、保護者会の前、先生が子供同士で何かあっても注意してくれなかったのも、もっとちゃんと注意してほしいかって言って、保護者会の後にちゃんと注意してくれるようになったし、いろんな先生が見に来てくれるようになって、あのクラスをまとめようとしてがんばっているという感じが伝わってきたと言っていました。

川中子 あのクラスだけで20数名のお子さんがあるんですが、子供たち一人一人に思っているところがあったと思います。今、このアンケートの結果なんかも見て、自分のお子さんの子と思いつかべていただいて、感じることでいいですし、ご家庭の様子を教えてくださいませんか。Gさん、いかがですか。

Gさん そうですね。朝、休みの時間とか、私の子供時代と比べたらよくしゃべるなと思っています。何か、しゃべる時間が増えているんじゃないかなんか思っています。それは、いいのかな。親と子供が会話する時間が持てるというのは、大事なことだと思います。コロナ禍の続きですが、休日に遊びに行こうと言って、遊びに行ける時間も取れた。普段の様子については、質問しても「別に。」とか、あまり多くを語らないですけど、ただ本人が好きなことやっていると、自由にやっているのを見ていて、それはそれでいいのかなんか思っています。まとまりないですが。

川中子 ありがとうございます。そちらの皆さんは中学生以上のお子さんもいらっ

しゃるんですが、ちょうどこの思春期、反抗期の時期のお子さんというのは、どうですか。では、Aさん。

Aさん 常に、うるさい、うるさい言われてますが。女の子なので、特にお父さんとは話さないのかな。4年生の子と一緒に遊んでくれますけど。(笑い)

川中子 学校の話はしますか？

Aさん いや、母親とはしていますが。妻の方が。お父さんの方には…。

川中子 私も女の子ばかりだったので、学校の話はほとんど聞かなかったですね。だいたい、顔を合わせる時間があまりなかったかな。Dさんはいかがですか。

Dさん 学校の話はしないですね。ちょっと、聞いても「別に」みたい。自分が小学校の時も、親とは話してないなと思います。うちは中学生の中2の娘が、まじめなお兄さんみたいな感じで、その下は立場上つらいんだろうなど。その下は、まあ、笑い担当みたいな感じ。3人はすごい仲良く遊んでます。うちの息子は母親といつもけんかしています。けんかするのが好き？でも子供たちだけで遊ぶと、3人で仲良くしています。まあ、ぼくも何となく息子の気持ち分かるし。注意されると逆にやりたくなくなる。そういう時期で、しようと思っていることをしなさいと言われるとしない。嫁は真面目なやつなので言っちゃう。で、飲みに行っちゃう。(笑い)

Fさん うちは、一番上が今日は共通試験で。まあ、やる気もなく、携帯ばかりいじっていて、勉強は全くしてないので。ただ精神的には自分で自分を追い込んでいく感じなので、勉強はしなければならぬけどなかなかやる気にならない。ギャンギャン言っても変わらないですね。2番目は中3なんで、真面目タイプで勉強もできる。一番下が、やっぱりお笑い担当みたいな感じですけど。まあ、学校で相当一生懸命やって帰ってくるんですね。疲れて帰ってきて、どんって座って、こたつに入るんですが、かみさんに「塾の宿題はやったの？」「学校の勉強はやったの？」と注意されて、「ウルセーなあ！」って叫んでいるのが、毎日の3時半くらいの様子です。それでもいったん泣いて落ち着くと勉強始める。子供なりにストレスためたり、疲れたりというのを、5年生になるとついてくるのかな。全然かんじてないようなアホさ加減なんですけど、たぶん本人なりに考えている、引きずりながら疲れるところがあるのかなんか思っています。

川中子 そうですね。子供は子供なりに、神経使って生活していて、家に帰ってくるとほっとして。自分の事思い返してみても、そうだなって思いますね。で、やっぱり、6年生くらいから中2くらいまでの間に、どうしても、親と仲良くするのがいやになるというか、したいんだけどできないとか。それはやっぱり反抗期っていうんでしょうね。私もそういう時期がありました。例えば、「お父さん」「お母さん」と呼べなくなった事がありました。自分の親に、「あんた」と言っちゃったりしました。親としてはすごくびっくりするでしょうね。今まで、お父さん・お母さんって言ってた子が突然あんたには言われたくないなんて言い出したりするんですからね。そう言っちゃった自分に傷ついたり。そういう、反抗期っていうのがあって、そういう時期にかかっている。今まで親とか大人のいうようにやって来たけれど、そうじゃない自分というのが中から出てきて、今までの自分も守らなければいけない、でも守りたくない、という葛藤が生じるわけですね。それが出てくるのが当然であって、出てこないのはまずいんですね。あんまりいい子のまんま育っちゃうと、30歳くらいになっておかしい事が起こったりもします。そういう時期が来たときに、親としてはショックが大きくて。特に初めての子どもと、すごくショックが大きいんじゃないかな。また、男の子と女の子で違ったりとか、その子の子によってちがうとは思んですけど、そういう時期が来ていて、先生の言うことを素直に聞いているのはかっこ悪いという思いがあるのは、当然のことなので。私たちが気をつけなければならないのは、そういうとき頭ごなしの怒って従わせようとしても、もうダメなんですね。ある程度の精神年齢の子は脅かすと従いますが、ある程度を超えている子は開き直ってしまいます。開き直っちゃうと、もう何もできなくなっちゃうんですね。私は中学校の教員だったので、かなり「やばい」指導をしているのを見ましたが、脅かして効いているうちはいいんですが、効かなくなったら手がないですね。特に女子がそうっちゃうとどうにもならない。「殴るぞ！」って言って「殴れば」と言われたら、殴るわけじゃないので、もう何もできない。だから、やっぱり、話して、時間をかけて心を開いていくしかないんですね。

もう、最初に言ったとおり、残りが卒業を控えて、あまりないので、これをどこまでできるか。まあ、我々も限られた能力の中でやっていますので、本当に満足いく結果が出せないこともあるんですけど、担任も最後までがんばってやっていこうとしていますし、学校としても最後まで支えていこうと思っています。どこまでのことができるかわかりませんが、残りの時間を大事にしていきたいなと思っています。お子さんにとっても、小学校時代というのは、その子の一生の中で一回しかないかけがえのないものですから、それがその子の成長にいい時となるようにしてあげたいし、逆にその子の一生でトラウマのように残ってしまうようなことにさせないようにがんばりたいです。最後に、副校長先生は、最近の様子で話しておきたいことはありますか。

副校長 私も冬休み前に校長先生とこれからどうしていかうかという話をしている私もさっき言ったように、だいたい5、6年の担任が学級崩壊や学年崩壊した後の担任ばかりやっていたので、よく最初の学校公開のアンケートで「担任が手山先生だったので非常に心配しましたが、安心しました。」と。手山がもつ=大変なクラス、という、そういう立場でした。で、長期休業開けて、良くも悪くもそれまで学級で築き上げてきたものが一回リセットされてしまうんですね。で、今回、6年の担任には、「リセットされるよ」と伝えました。でも、それがラッキーなこともあって、いままでうまくいってなかったことを一回リセットして、仕切り直しできるという。1組も、本当に、私が入ったとき、怖い集団だったんですよ。自慢じゃないですけど、そういうクラスばかり見てきたので、ある程度こっちに指導力があると思っていましたが、入ったとき、鳥肌が立つような雰囲気でした。何が、というと、校長先生の言葉を借りると、「殺伐とした雰囲気」というのを肌で感じてしまうような気持ちでした。ですから私も正直、圧が強い指導で12月はぐっと引き締めを図りました。おそらく何人かの子供や保護者の皆さんには、なんで副校長がいきなり入ってきて厳しくされなければならないんだと思った方もいらっしゃると思います。私もそれに悩みながらも、校長先生からは「緊急事態だから、仕方ないよ。」と言われながら、迷っていました。ただ、それをずっと続けてしまうと、担任の立場もなくなってしまいますので、子供たちもどこに向かえばいいと言うことが分からなくなってしまいますので、担任にも「ああいうことはもう1月からはしませんよ。バックアップはしていきますが、担任の先生と学年の先生をお願いしますね。」と言って冬休みを迎えました。12月の半ばまでは、私が厳しくまとめたんですけど、この一週間は、至って普通な感じになっています。私としてはいい感じかな、と。じゃあ、これから卒業まで本当に大丈夫なのって聞かれたとき、自信をもって大丈夫ですとは言いきれないので、しばらく毎日見ていこうかなと思っています。

川中子 はい。ということで、今日は、時間も過ぎてしまっていますが、子供たちには、私はもうとにかく、これだけ！というのは、教育目標の三つをしっかり身に付けて、これからも糧にして行けるようにして卒業して行ってほしいなど。本当に、自ら学び、考え、行動できる人になってほしいし、思いやりをもち、共に生きる人にならなければいけないし、そのためにもしなやかで丈夫なこころとからだをもつ人になってほしいなと思っています。残りの時間でどこまで、子供たちの心に寄り添えるか分かりませんが、ぜひ、これからはがんばりますので、皆様も応援をよろしくお願いします。今日はありがとうございました。

